

ワイズメンバーの皆様へ

この度は、ワイズメンズクラブ国際協会 2022-23 年度の会長として、私を信頼していただき、ありがとうございます。私たちには実現しなければならない偉大な遺産と、乗り越えなければならないより大きな課題があります。私たち一人ひとりの中には、掘り起こすべきサービスの宝庫があり、共に偉大なことを成し遂げることができるのです。

遺産

1920 年、グレートトレード YMCA が奉仕クラブの発案者となり、1922 年の3年に1回の米国 YMCA 大会で 17 クラブが集まりワイズメンズクラブ国際協会が設立されました。クラブのメンバーは、YMCA のためにもっと何かしたいと考える人たちでした。小さな計画から始まったこの活動は、いまやレガシー（遺産）となっています。

次の 100 年

私たちの目標は、私たちの運動を活性化し、より目に見える、活気に満ちた、インパクトのあるものにする事で、会員数を飛躍的に増加させ、次の 100 年にとって相応しいものにする事です。今こそ、「新世紀」のための土台を築くときです。

7 月強調月間テーマ

PR(広報活動)とコミュニケーション

私たちの運動をどうすれば志の高いものにできるでしょうか。私たちの運動が尊敬されるようにするには、どのようにアピールすればよいのでしょうか。私たちは、世界中に素晴らしい才能を持ったメンバーや非常に効果的なプロジェクトを持っていますが、メンバー以外の人々にも紹介する必要があります。しかし、悲しいことに、私たちが行っている活動やアウトリーチプログラムのほとんどは、メンバーだけが知っているものに限定されています。場合によっては、会員でさえも他の区プロジェクトについて知らないことがあります。私たちが異なる地域で行っている貢献は膨大であり、それぞれについて語り継がれ、共有できるようなストーリーを作る必要があります。私たちの運動がどのように人の人生を変えたかを示す証言を作成する必要があります。そして、奉仕活動を通じて私たちの喜びを示す必要があります。「私たちは楽しみながら地域奉仕活動をしているのです」と。

私たちは、奉仕、楽しみ、家族、親睦といった精神を伝える必要があるのです。ビデオ作成・編集ツールを使えば、プロジェクトについて 30～40 秒の短いビデオを作成することができます。

すし、ソーシャルメディアは、私たちのプロジェクトを紹介する素晴らしいプラットフォームを提供してくれています。私たちは、自分たちのストーリーを語り継ぐ必要があるのです。

ユニークなプロジェクトに焦点を当てる

世界的とまではいかなくても、少なくとも国全体で 1 つか 2 つの事業を特定するべきだと思います。インドでは、ロータリーは、ポリオ撲滅に、ライオンズは、献血に力を注いでおり、これらの奉仕組織は、1 つの優れた奉仕によって認識されています。私たちは、インドでは透析事業と初等教育に力を入れてきました。ブランディングを行う上で、事業が、焦点と目的を持っていれば、コミュニケーションは、より容易になります。国や地域ごとに独自のプロジェクトを決めれば、地域や区のリーダーシップチームが変わっても、継続性を保つことができます。各地域で 1 つの「100 周年記念事業」をはっきりと示しましょう。

家族に焦点を当てる

ソーシャルメディアが、私たちの思考空間の大半となっていて、家族や個人の時間を占める世界において、私たちは、家族、特に若者や子どもがより多く参加する会合やプロジェクトを行うべきです。そのためには、他の家族の関心を引きつけるようなしきたりや集会のプログラムを作り変える必要があるかもしれません。

良質な会員増強に焦点を当てる

ワイズメンズクラブ国際協会の活動には、より多くの人々が参加できるような、魅力的なイメージが必要です。退会した会員のうち、少なくとも 25% を呼び戻すことを目標にできないでしょうか。簡単なアイデアとしては、3 人の現会員で構成されるグループが協力して、毎年 1 人の新会員を入会させるというものがあります。そうすれば、3 年後には会員数を 2 倍にすることができます。

関心と参加

成せばなります。ジョセフ・マーフィーは、著書「潜在意識の力」の中で、「もしあなたが、心の目を開いて、あなたの中にある無限の宝庫を見ようとするなら、無限の富があなたの周りにある。あなたの中には金鉱があり、そこから人生を楽しく、輝かしく、豊かに生きるために必要なものすべてを取り出すことができる。」と述べています。つまり、私たちが行おうとすることを果たせるかどうかは、私たち自身にかかっているのです。

皆さんにとって、希望に満ちた 100 周年となりますように。

国際会長
K・C・サミュエル



ありがとう、ウォーリー

アラン・ウォーリントンは、2003年から2013年まで「ワイズメンズワールド」の編集長を担当し、2020年から22年までは、「国際会長ニュース」の編集長も務めました。ウォーリーが、国際会長ニュースの編集を新チームに引き継ぐにあたり、ワイズメンズクラブ国際協会への素晴らしい尽力と奉仕に感謝します。



編集長としての喜び

編集長になるということは、思いがけない体験になるものです。2003年、国際会長のジェイコブ・チェリアンがデンマークでの会議から帰国し、その帰りに私を訪ねてきました。そのとき、突然「ワイズメンズワールド」(現在の YMI ワールド)の編集長にならないかと言われたのです。なぜ、そのようなことを言われたのか、何年経ってもわかりません。私の職業は、エンジニアであり、クラブブリテンの編集の限られた経験しかありませんでした。1991年に定年退職して、少し時間ができました。そこで、いろいろと考えた末に、やってみることにしました。国際本部が DTP ソフトを購入してくれました。そして私は、発見の旅に出ました。

最初に発見したのは、自分のクラブのブリテンであろうと国際的な出版物であろうと、編集長としてできる友人の幅が驚くほど広いということです。私のコンピューターには2,500人の名前と住所があり、全員が親しい友人というわけではありませんが、全員が私と連絡を取ったことがあるのです。私のクラブのブリテンは、300人以上の読者に配布されていますが、その多くは、編集長としての仕事を通じて連絡を取った人たちです。

2つ目のメリットは、ワイズメンズクラブ国際協会の国際的な効果が、よりよく理解できることです。世界中からストーリーが寄せられ、書かれた記事によって、私たちのプログラムの価値が増幅されます。タイムオブファスト、ロールバックマラリア、ウィークフォアウエイストなどのプログラムやプロジェクトは、私たちが行っている重要な活動を会員に伝えています。

編集長としての喜びと同時に、フラストレーションもあります。なぜ、読者から記事を送ってもらうのが、こんなに難しいのでしょうか。なぜ、送られてくる写真の多くは、活動中の写真ではなく、カメラを見ている人の列なのでしょう。なぜ、いい仕事をしているのに、ワイズメンズクラブ国際協会のロゴが写っていないのでしょうか。

の制作をした2年間は、本当に楽しかったと思います。前者は、そろそろ新しい眼と方向性が必要だと思い、見切りをつけました。YMI ワールドの編集長であるコッシーは、まさにそれを提供してくれたのです。、わずか2年で「国際会長ニュース」の編集長を辞めるのは、より難しいことでした。しかし、私は、もうずっと年を取りましたし、毎月、年12回発行のタイトな締め切りのプレッシャーは、続けるには限度を越えるものでした。

ダニエルと彼のチームの幸運と、サムエル国際会長のための国際ニュースを編集する楽しみを祈ります。記事、写真(YMIのロゴが写っているようにしてください)、そしてチームのみんなが引き受けた複雑な仕事への励ましで彼らをサポートしてください。

ワイズダムの皆さんへ



国際本部ニュース 2022年7月

今月は、ワイズメンズクラブ国際協会のカレンダーどおり、正式に100周年記念の年を迎えます。2022/23年度のチームもそれぞれの役割を担うようになり、リーダーシップも一新され、活気にあふれています。ポータルバズの管理者は、各役員のデータを更新し、来月提出される半年報の準備を行ってください。国際本部は、すべての新しいリーダーが成功することを祈っています。私たちスタッフは、皆さんをサポートします

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」を主題に、K・C・サミュエルを国際会長として迎えることができました。2021/22年度キム・サンチェ国際会長の熱意とイニシアチブに感謝します。「世界とともにワイズメン」というテーマで私たちを鼓舞し、「世界を癒そう」プログラムや、現在も続いている新型コロナウイルス大流行の中で私たちのつながりを保ち、モチベーションを維持するための他のアイデアをもたらしてくれました。また、ジェイコブ・クリステンセン直前国際会長には、過去3年間、国際執行役員としての献身的なリーダーシップの発揮に感謝します。国際執行役員の任期は終わりますが、彼は、今後もワイズマンとして積極的に活動することでしょう。



7月の第1週目にはデンマークのオーフスでYMCA世界大会と共にユニークな国際議会が開催され、私たちが共有する歴史を再認識し、祝う機会があります。サミュエル国際会長の就任式と、デンマーク区の支援による100周年記念特別プログラムは、7月5日午後8時(中央ヨーロッパ夏時間)から開催される予定です。その模様は、フェイスブックライブやウェブサイトからご覧いただけます。

2021/22年度には100以上のクラブがチャーターされ、後期の会費支払い済み会員数は、25,019人と記録されたことをご報告します。6月22日にギリシャのテッサロニキクラブが、6月25日にエチオピアのシギガアディスアベバクラブがチャーターされ、両国が再びワイズメンズクラブ国際協会のファミリーの一員となったことを大変嬉しく思います。すべての区と地域が、エクステンションと会員維持に力を入れ、パンデミックの困難にもかかわらず、100周年記念行事の計画と実行に熱心に取り組んだことに感謝します。先月は、インドがチェンナイで40周年記念地域大会、デンマーク区がオールボーで75周年記念大会、そして西日本区が岡山で25周年記念大会を開催されました。おめでとうございます。

7月は「広報強調月間」です。広報は、ブランディングやイメージづくりのために重要な運動です。広報マニュアルを活用し、ワイズメンズクラブ国際協会における広報の意味を理解し、個人およびクラブレベルでどのようなアクションを起こすべきか、アイデアを得てください。

国際書記長
ジョース・ヴァルギース

「新世紀」に向けて 広報とイメージアップ戦略

ジム・ローハンは、「どんな良いものを作っても、結局は、私たちを作ることになる」と言いました。ワイズメンズクラブ国際協会は、貧しい人々や困っている人々を助けるために、世界各地で多くの人道的プロジェクトを実施している素晴らしい運動です。私たちは、自分の仕事を果たしながら、自分たちが行ってきたことを話すことが重要です。そうすれば、個人の生活や地域社会を変えた感動的なストーリーが、私たちをさらに成長させてくれるでしょう。そうすることで、質の高いメンバー、本物の寄付者、信頼できるパートナーを集めることができるのです。

私たちの PR と「イメージ構築」戦略は、内向きと外向きの両方でなければなりません。外向きのアプローチでは、私たちの活動や運動について、一般の人々に正しい認識を与え、私たちの運動を理解し、支持してもらい、今日あるいは将来的に私たちのメンバーになってもらうことを目指さなければなりません。一方、内向きのアプローチでは、ワイズメンズクラブ国際協会を代表する会員を育成し、会員一人ひとりの行動によって、ワイズメンズクラブ国際協会のイメージを高めていくことが必要です。つまり、会員一人ひとりが、ワイズメンズクラブ国際協会のことをよく知り、この運動に多くの会員を引きつける真の磁石となることで、この運動は、本当の意味で成功するのです。

創立 100 年を無事に迎えることができる組織は、ごくわずかであり、私たちは、そのような偉大な運動の一翼を担っているのです。そして、私たちは、100 周年という節目の年を迎えています。このユニークな業績に基づいてブランドを構築し、世界の中で適切な位置を占めるのに、これ以上のチャンスはありません。今年、インパクトのある奉仕活動「100 周年プロジェクト」を実施し、それを世界中に、特に近隣に広めることが重要なポイントになるはずですが。また、私たちの努力に貢献し、互恵的な方法で私たちの新たな取り組みの影響を増大させることができる、良いパートナーを見つけようではありませんか。

100 周年記念の年は、私たちのブランドの知名度やイメージを高めるためのイベントや活動を企画するのに活用できるはずですが。私たちの目標は、適切な可視性、認知度、イメージ、関係を作り出すことによって、世界中で会員数の増加とワイズメンズクラブ国際協会のブランド認知につながる戦略を計画し、実行することであるべきです。この実行戦略の 4 つの柱は、コミュニケーション、イベント、プロジェクト、パートナーシップです。私たちのコミュニケーションは、高度なテクノロジーとデジタルメディアプラットフォームの可能性を最大限に活用し、綿密に計画され、定期的かつ集中的に、そしてデジタルに行わなければなりません。

イーロン・マスクの言葉です。「ブランドは、単なる認識であり、認識は、時間とともに現実と一致するようになる。私たちは、すぐに現実と一致するような、正しい認識を作り出す努力をしよう。」



広報・コミュニケーション国際事業主任
グリーンアスタークラブ インド、バンガロール
マテュークティ・セバスチャン

ロシア-ウクライナ

圧力下にあって



独立教会の司祭によって行われた、両陣営の犠牲者のための礼拝
公式教会の総主教は「特別作戦」を支持している



わが国の当局が「特別作戦」のシンボルとして
選んだ「Z」の文字



サンクトペテルブルクの中央通りで抗議する
人々を逮捕する



野外展示で戦争に抗議する私たちの
アーティストたち



マリーナ・マカロワ

愛と戦争ではすべてが公平です。2022年2月24日、このフレーズから「愛」が消されました。ロシアがウクライナに対して戦争を始めたのです。公式には「戦争」が「特別作戦」に置き換えられました。私は、ロシアのプロパガンダが示す理由が理解できません。なぜわが国は、独立国である隣国の人々を殺し、都市や村を破壊しなければならないのでしょうか。彼らに何をもちたそうというのでしょうか。繁栄ですか。まず、自国を繁栄させなければなりません。しかし、この目標は、はるかに遠いところにあります。そして今日、私たちは、世界からの完全な孤立、弱い経済、抑圧、外国企業の不在というソ連の時代-「第2の鉄のカーテン」-に急速に戻りつつあるのです。私たちは、皆、この戦争の重圧の中で生きています。ある人は、この戦争を肯定し、ある人は、この戦争を憎んでいます。この戦争は、まるで冷戦下の内戦のようです。境界線は、しばしば一つの家族のメンバーを分断します。

同じ考えを持つ人を見つけたのなら、「ウクライナ万歳」という合言葉を覚えておくといいで

す。返事は「英雄万歳」です。このパスワードが働かないと、「特別作戦」に賛成している人たちとの議論から抜け出せないということです。

ウクライナのワイズメンでは、ザポリッジャクラブのナデシュダ・クドリャシヨバ会長（孤児院の院長）が、教え子たちと一緒にポーランドに避難しています。5月末の区大会で、ロシアのワイズメンは、「戦争」について言及しないことに合意しました。難民を助ける人もいれば、昔からのプロジェクトを続けている人もいます。私は、ソーシャルネットワークでユーモラスなことを発表するのをやめました。楽しんでいる場合ではないのです。私たちの生活は、大きく変わり、それを普通にするためには何十年もかかるでしょう。



ボリビア、サンタクルス・デ・ラ・シエラ

コミュニティサービス

ラテンアメリカのパートナーや友好団体から寄せられた寄付

- ・パンデミック期間中、児童養護施設、10代の母親がいる施設、身寄りのない高齢者、農村部に住む人々など 820 人に協力しました。
- ・道徳的、宗教的価値観、予防的歯科治療、その他の健康問題についての講演を行いました。
- ・食べ物、衣類、おもちゃ、薬、衛生用品などを届けました。



ワイズメンのインパクト：

コソボで最初のキャンプ場



コソボ YMCA は、設立当初からワイズメンにとって身近な存在でした。ワイズメンズクラブデンマーク区は、区のプロジェクとして資金とボランティアの支援を行い、コソボでの YMCA キャンプ・キャンプ・ピーテルシヤンの開設に貢献しました。これは、コソボ全土で初めてのキャンプ場です。2017 年以降、宿泊棟の建設や土地の購入のために、デンマーク区から 12 万米ドル以上の資金が提供されてきました。また、スポーツ場、宿泊棟のベッド、インフラ（道路、水路、井戸）の建設も一部支援しています。また、ミニバス、デンマークからのキャンプ活動用家具、寝袋やベルなどのキャンプ用品など、デンマーク区、地元クラブ、ワイズメネットから多くの現物支援がありました。

YMCA コソボの総主事であるドリーナ・ルカ・デーヴィスは、次のように述べました。

2022 年 6 月 1 日の朝、キャンプ・ピーテルシヤンで、私たちは、デンマークからの友人たちと宿泊棟の一つを落成させることができたことを誇りに思っています。その宿泊棟は「デー」(デンマーク人)と名付けられ、外には美しい木製のプレートと木製の三角形があります。

デンマークの文化には、「誰も何も言わなくても、誰も忘れることはない。」という諺があります。この小屋の名前は、十分にお礼の気持ちを伝えられないデンマークから援助や貢献をしてくれた人たちに敬意を表して付けられたものです。2 段ベッド、荷物用の棚、木質ペレット暖房システム、洗濯機と乾燥機、トイレとシャワーが備え付けられています。このプロジェクトは、当初はデンマーク区から、その後、地区の開発省、ジャコバ市、そしてフィンランド YMCA から家具などの支援を受けています。今日、友人たちとこのキャビンオープンできたことは、大きな名誉であり特権でした。



腎臓ケアプロジェクト —インド



今年、バンガロール第 2 部では、腎臓病患者の苦痛を軽減する長期的なプロジェクトとして、「ジーヴァン・ジョチ」を構想しました。

プロジェクト

- ・適切な腎臓ケアは、世界中で、特にインドで、苦痛と生命を脅かす問題として浮上しています。
- ・腎不全患者の 3 分の 2 が透析を受けることなく亡くなっています。
- ・毎年 21 万人の患者が新たに腎不全を発症しています。
- ・インドでは 80%以上の患者が自己負担で透析を受ける必要があります。
- ・その多くが、月に 2~15 回の透析を必要とし、患者やその家族にとって経済的に大きな負担となっています。

そこで、バンガロール第 2 部は、バンガロールの病院と協力し、腎臓病の治療中の貧しい人々に経済的支援を提供するユニークなプロジェクト「ジーヴァン・ジョチ」を立ち上げました。

このプロジェクトは、ホスコートのマルトマ・メディカル・ミッション・ホスピタルで開始され、K・C・サミュエル、スピッシュ部長とチーム、ジンソン・K・マッシュー牧師によって発足されました。

7月は世界的に「環境月間」です。その中で、マーガレット・アトウッド(Margaret Atwood)の詩は、今の時代にふさわしいメッセージを持っています。

その瞬間

長年の努力と長い航海の末の瞬間に

自分の部屋の真ん中に立つ、自分の家、半エーカー、平方マイル、島、国。

自分がどうやってそこにたどり着いたのか、ようやく知ることができる。

そして、「これは私のものだ」と言うのです。

それは、木々があなたを包む柔らかな腕を解き放つと同じ瞬間です。

鳥たちが言葉を取り戻し

崖に亀裂が入り、崩れ落ちる。

空気が波のように逆流し

あなたは息をすることができない。

いや、彼らは囁く。あなたは何も所有していない。

あなたは訪問者だった、何度も何度も

丘に登り、旗を立て、宣言する。

私たちはあなたのものではありませんでした。

あなたは決して私たちを見つけることができませんでした。

いつもその逆だったのです。

マーガレット・アトウッド

編集長のノート

いい話、ニュース記事、プロジェクトの写真などをお持ちの方は、編集長(ysmipnews@gmail.com)までご連絡ください。

8月の特集は「フォワード・プランニング:戦略 2032」です。
よろしくお祈りします。

ダニエル・トーマス

国際会長ニュース編集長 2022-23 年